

重点「道の駅」うきはを拠点としたヒト・モノの移動支援に関する社会実験 (福岡県うきは市)

1. 実験実施の背景

- ・市面積の75%を占める中山間地域では急峻な地形条件に加え高齢化率が39%に達するなど、生活や生業の移動手段に課題
- ・深刻な高齢化により自力での農産物出荷が困難な状況
- ・平成26年10月より路線バスが2路線10便廃止され、生活の足が失われつつある

2. 検証項目

- ① 安定的な集荷の可能性(農産物の集荷)
- ② 実施内容へのニーズ確認(日用品の宅配)
- ③ シャトルバスの利用状況
- ④ デマンドタクシーの効果
- ⑤ デマンドタクシーの利用促進策

3. 今回の実験内容及び結果

【実験地域】 うきは市小塩・妹川地区

【実験内容】

●モノの流動支援

- ①EVトラックを活用した農産物の庭先集荷
・小塩地区で採れた新鮮な野菜、山菜などを「道の駅」うきはのEV車を活用して出荷
- ②EV車を活用した日用品の宅配
・スマートフォンで注文された商品を、翌週の農産物集荷時に配達

●ヒトの移動支援

- ③EVデマンドタクシーネットワーク拡大
・デマンドタクシーの乗り継ぎ拠点であるうきは市民センター～「道の駅」うきは間にシャトルバスを運行

【実施期間】 平成28年7月～平成28年12月



図-1 位置図



図-2 EVトラック



図-3 道の駅うきは



図-4 うきは市民センター



図-5 シャトルバス

4. 検証結果

- ① 安定的な集荷の可能性(農産物の集荷)
 - ・実施日21日に対して20日の利用(利用率95.2%)
- ② 実施内容へのニーズ確認(日用品の宅配)
 - ・集荷日21回に対して、利用日3回(利用率14.3%)
 - ・不慣れなスマートフォンによる注文方法に抵抗感
 - ・宅配可能な商品と利用者ニーズとの不整合
- ③ シャトルバスの利用状況
 - ・約8割の利用者から、道の駅や市民センター周辺への訪問頻度を増加する意向を確認
- ④ デマンドタクシーの効果
 - ・シャトルバス利用者の約8割がシャトルバスの運行により利用頻度が増えると回答
- ⑤ デマンドタクシーの利用促進策
 - ・シャトルバス利用者のほぼ全員が今後の利用意向
 - ・半数以上がリピーター



図-6 農産物集荷状況



図-7 スマートフォンによる注文

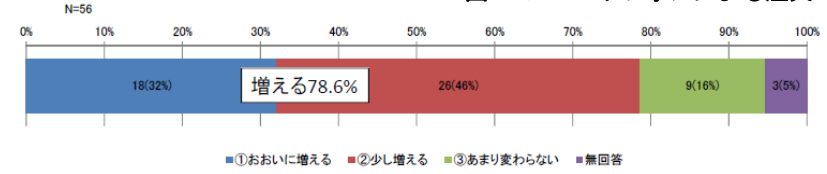


図-8 シャトルバス運行による道の駅や市民センター周辺への訪問頻度

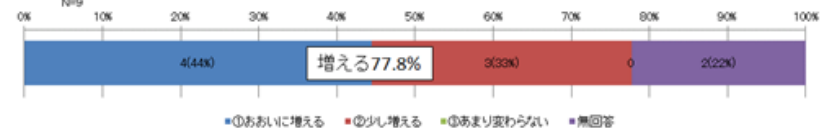


図-9 シャトルバス運行によるデマンドタクシー利用頻度

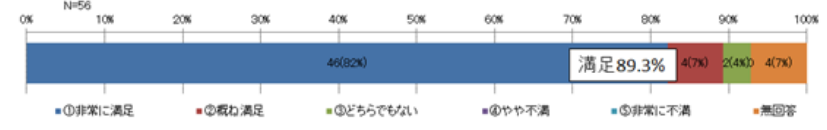


図-10 シャトルバス満足度

5. 実験後の展開、明らかになった課題等

- モノの流動支援
 - ① EVトラックを活用した農産物の庭先集荷
 - ・集荷場所の追加(費用負担含む)など、さらなる利用拡大と運営の効率化が課題
 - ② EV車を活用した日用品の宅配
 - ・利用者ニーズに対応した効率的な運営が必要

- ヒトの移動支援
 - ③ EVデマンドタクシーネットワーク拡大
 - ・デマンドタクシーの利便性向上と「道の駅」の拠点化について個別検討が必要